

## 吉田鉄郎による北陸銀行新潟支店の平面計画について 1950 年代前半の書簡・スケッチ等関連資料の分析を通して その 4

### A study on the floor plan of the Niigata Branch of the Hokuriku Bank designed by Tetsuro Yoshida Through analysis of related items such as letters and sketches from the early 1950s Part 4

○高木愛子<sup>1</sup>, 大川三雄<sup>2</sup>, 田所辰之助<sup>2</sup>

\*Aiko Takagi<sup>1</sup>, Mitsuo Ohkawa<sup>2</sup>, Shinnosuke Tadokoro<sup>2</sup>

The Niigata Branch of the Hokuriku Bank is an architecture designed by Tetsuro Yoshida in his later years. The purpose of this study is to identify the characteristics of the floor plan of the Niigata Branch of the Hokuriku Bank. By analyzing items from collection of NTT FACILITIES, INC., it was shown that: The function of the room was the same as the post office that Yoshida had designed so far. The columns of his other works were evenly spaced. But The columns spacing of the Niigata Branch of the Hokuriku Bank was not the same because it was determined by the function of the room would be different. However, Yoshida changed the floor plan so that as many columns spacing as possible would be 3m.

#### 1. はじめに

逓信省の代表的な建築家として知られる吉田鉄郎は、1944 年に逓信省を辞した後も、北陸銀行の新潟支店、長野支店、代々木寮、福井片町支店などの作品を手掛けているが、新潟支店以外はほとんど評価の対象とされていない<sup>[1]</sup>。一方一連の支店の設計に関しては、病床の吉田と現場の澤寅吉との間でやり取りされた大量の資料が、株式会社 NTT ファシリティーズに保管されており、筆者は晩年の吉田の設計プロセスを明らかにすることを目的に、これら資料の検証を進めている<sup>[2]</sup>。

吉田は新潟支店の設計について「日本建築では、平面図ができ、柱の位置がきまると、きわめて必然的な、きわめて普遍的な、だが、きわめて洗練された家の姿がほとんど自動的にできあがる仕組みになっている。

(略) この銀行をやる場合も、その考えを基礎にしてやってみた。(略) この方向でくりかえしやってみたい気がする<sup>[3]</sup>と述べ、設計手法に手ごたえを感じていることが窺える。そこで本稿では、この「自動的にできあがる仕組み」の基礎である、平面計画の特徴について検証を行った。

#### 2. 平面構成の特徴

吉田は本作が初めての銀行建築であったと述べているが<sup>[4]</sup>、部屋の機能としては Table1 の通り、金庫室や客室などの特殊性もあるものの、吉田が長年手掛けてきた郵便局と共通する部分が多い。新潟支店では、客溜と営業室を中心に、金庫室と応接室が隣接し、湯沸室や宿直室などのバックヤードが一階奥に設けられ、

会議室や休憩室、客室などは上階に配置されている。また、メインである客溜と営業室は、吉田の作品には珍しい吹抜空間となっている。これらの構成は、長野支店と福井片町支店にも共通する特徴である。

#### 3. 不整形な柱割

吉田の主な鉄筋コンクリート造の作品は、柱割がおおよそ 5~6m 幅の整形ラーメンや均等ラーメンのもの

Table1. Comparison of the function of the room

作品名	北陸銀行 新潟支店	小川町郵便局	赤羽郵便局 電話事務室
竣工年	1951	1930	1935
面積	571㎡	333.09㎡	980㎡
部屋の 機能	風除室	玄関	
	客溜	公衆溜	公衆室
	営業室	現業室	事務室
	応接室	応接室兼食堂	応接室
	金庫室		
	汽鐘室		暖房機械室
	便所	便所	便所
	湯沸室	湯沸所	湯沸室
	小使室	小使室	小使室・監視員室
	宿直室	宿直室	工員・吏員・ 技工宿直室
	食堂休憩室		吏員食堂・ 技工休憩食堂
	行員室		工員室・技術官室
	客室		
	会議室		
	配膳室		
	電話機室		公衆電話・電話倉庫
			電力室
		電池室	
		自働機械室	
		車・自電車置場	
倉庫 <sup>[5]</sup>	物置	薪炭石炭置場・ 灰捨場・油庫	
	浴室	浴室	

※『吉田鉄郎建築作品集』<sup>[1]</sup>より平面図が掲載され建築規模の近い作品を選定

1 : 日大理工・研究員・建築 2 : 日大理工・教員・建築



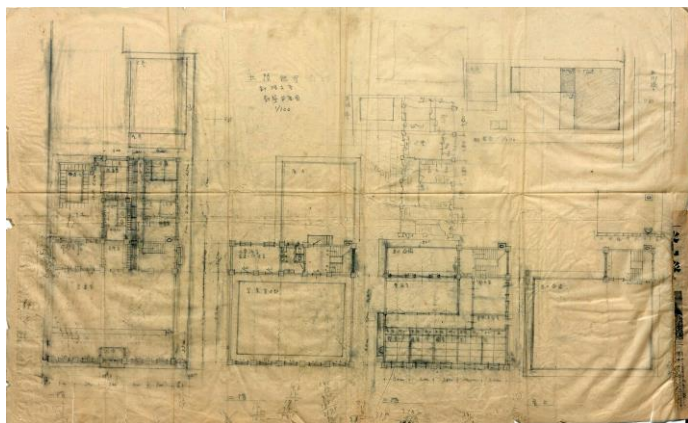
Figure1. The office room in the Niigata Branch of the Hokuriku Bank (No document number)

が多いと言われている<sup>[6]</sup>。これに対して新潟支店は、やや不整形な柱割となっている。間口 15m 奥行 11m の客溜および営業室に柱を立てないように<sup>[4]</sup>、11m×3m という吉田には珍しい柱割が用いられた。一方、営業室の奥の柱間は 3.5m と短く、階段室の他、金庫室や応接室、食堂などの部屋が配されている。均等な柱割ありきではなく、各部屋のサイズや機能に合うように検討がなされたことが分かる。

#### 4. 最初期の平面図にみる変更点

吉田のサインの入った「北陸銀行新潟支店新築平面図」(Figure2)は、最初期の平面図であると推測される。本館の計画は既にほぼ実施案通りに描かれているが、奥の附属舎については、中央に廊下を配し宿直室とトイレが中庭に面する計画がなされていた。しかし同図面上に、廊下を中庭側に配した実施案に近い案がフリーハンドで描き込まれており、吉田が取り急ぎ変更を行った様子が窺える。

Figure3 のとおり、当初案では 5m×3m・6m が 2 スパンという複雑な柱割となっていたが、この変更によって 3m×6m が 4 スパンという明快な柱割となった。



#### 5. まとめ

今回の検証を通して、北陸銀行新潟支店の平面計画は、構成要素は郵便局と共通する部分が多いが、柱割は各部屋のサイズや用途に合わせた構成がなされており、結果として吉田の他の作品と比べてやや不整形となっている。一方で附属舎の平面を変更することで、柱割を 3m に整える工夫も行われていた。この 3m が立面構成など建物全体の一つの基準寸法となっており、「自働的にできあがる仕組み」の具体的な手法は、内部空間や機能を優先しながらも、可能な限り柱割の寸法を調整する平面計画にあるといえる。

#### <謝辞>

本研究では、株式会社 NTT ファシリティーズにて長期間にわたり資料調査を実施し、多大なるご協力をいただきました。同社堀田渡氏と吉岡康浩氏並びに郵政建築研究所観音克平氏に、深く御礼申し上げます。

#### <註記>

- [1] 葉師寺厚「解説—作品とその変遷」『吉田鉄郎建築作品集』東海大学出版会, p.14, 1968.
- [2] 高木愛子・大川三雄・田所辰之助「北陸銀行新潟支店における吉田鉄郎の設計プロセス-1950 年代前半の書簡・スケッチ等関連資料の分析を通してその 1-」, 第 61 回日本大学理工学部学術講演会, pp.567-568, 2017.
- [3] 高木愛子・大川三雄・田所辰之助「吉田鉄郎設計による北陸銀行新潟支店の設計過程とその時期区分について-1950 年代前半の書簡・スケッチ等関連資料の分析を通してその 2-」, 2018 年度日本建築学会近畿支部研究発表会, 発表 No.9028, 2018.
- [4] 吉田鉄郎「北陸銀行新潟支店」『新建築』27(7), p.317, 1952.
- [5] 吉田鉄郎「北陸銀行新潟支店の建築について」『建築雑誌』Vol.789, p.26, 1952.
- [6] [1]には「附属舎」と記載されているが、設計期間中は本館奥のバックヤード部分の呼称であるため、資料「北陸銀行新潟支店新築工事概要」(資料番号無)で記載されている名称に置きかえた。
- [6] 矢作英雄「作品に現れた特徴について(続)-建築家吉田鉄郎研究序説 その 3-」, 日本建築学会関東支部第 40 回学術研究発表会, pp.21-22, 1969.

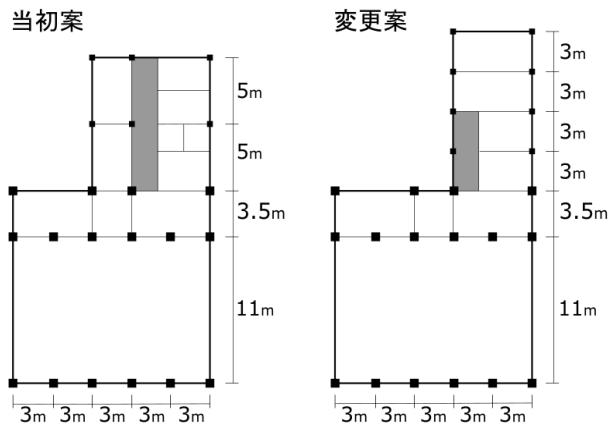


Figure2.(left) The Niigata Branch of the Hokuriku Bank, New construction plan (Document number : 18058)

Figure3.(right) Changing the plan of the columns spacing (Author's drawing)